

平成 25 年度卒業式・修了式

告 辞

若草萌える春、保護者、同窓会関係者並びに来賓の皆様方のご臨席の下に、平成 25 年度の琉球大学卒業式並びに大学院修了式を挙げていただけますことは、この上ない喜びでございます。本日のこの喜びを、なにかんづく保護者の皆様方と分かち合いたいと思います。また、母国を離れて異なる環境のもとで頑張った、留学生諸君の奮闘努力にも敬意を表します。

学士・修士・博士の学位を取得した 1, 452 名の学部卒業生及び 269 名の大学院研究科修了生、9 名の特別専攻科の諸君に対し、心から祝福申し上げます。おめでとう！ 諸君に授与した学位は、琉球大学が自信を持って、「国際的な通用性をもつ教育の質を保証し、豊かな教養を身につけた幅広い職業人と優れた専門性を身につけた高度専門職業人及び研究者を養成」したことを保証する証です。諸君には、本学で培ってきた深い学識と人間力をベースにして、国際社会及び地域社会で活躍するグローバル・リーダーとして、社会経済の発展に大きく寄与することが期待されています。

本日をもって、諸君は学舎を巣立っていきますが、琉球大学の卒業生・修了生として誇りを持ち、それぞれの人生の局面において諸君が自分のありのままを活かして、前向きなマインドで活躍し成長することをお祈りいたします。

本日の卒業式・修了式に当たって、諸君を支えてくれた多くの方々の力があつたことを忘れないで下さい。保護者はもとより、友人、大学の教職員、地域の皆さんの支援があつて今日の諸君があるわけです。支えていただいたすべての方々への感謝の心を忘れないでいただきたい。

諸君が在学したこの四年ないし六年間を振り返りますと、最大の出来事は、2011年3月11日に東日本大震災が発生し、震災関連死を含め多くの犠牲者が出たことでした。犠牲になられた方々に対して、心から哀悼の意を表するとともに、一日も早い被災地の復興をお祈りいたします。東日本大震災によって、この国の姿・あり方が大きく変わりました。われわれの人知を越える自然の力の巨大さをまざまざと見せつけられた災害及び事故でしたが、それは「想定外」という言葉で逃げ切れるものではありません。自然現象に対する予知・予測能力とその後の危機対応能力をどのように高めていくべきか、現代科学と現代社会のあり方が問われていると言っても過言ではありません。

歴史の教訓を学び、科学の力に奢らず、自然の力に対する畏怖の念を持つことが重要であります。人類の歴史は、自然と共生してきた歴史であり、闘いであったと言えます。現代

科学をもってしても、自然の力は制御できないばかりか、取り返しのつかない人災まで引き起こしてしまう始末です。

過去から学び反省することの重要性は強調してもしすぎることはありませんが、同時に過去の呪縛に囚われすぎても希望は見えてきません。鎌倉時代の歌人・鴨長明の『方丈記』に、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という有名な一節があります。過去から未来へ向かって流れる時間軸の中で、いつまでも過去を引きずるよりも、前向きに夢と明るい希望を持って、過去から未来への架け橋である「今」を精一杯生き抜くことが大事だと思っております。

人生の生き方に関して、私が尊敬してやまない堀場製作所の最高顧問である堀場雅夫氏の言葉を紹介します。堀場氏曰く、「人間一人の命の重みは、何ものにも代えがたい。この素晴らしい人間のわずか数十年の命をムダに過ごしてはならない。できるだけ〈おもしろおかしく〉生きて、茶毘に付される前に〈いい人生だった〉と思えるようにしたい。」と。この言葉は、これから経験する実社会がその人を楽しませてくれることはない、自分自身がおもしろおかしい人生を主体的・自主的に追求すべきだという主旨であると理解しています。

ところで、われわれ人間の活動が地球規模で広がり、国境を越えた経済活動の展開や ICT を活用したグローバルネットワークの広がりによって、国際社会の繁栄がもたらされてきました。同時に、グローバリゼーションの陰の部分が増大化し、人間の生存そのものを脅かす、解決を急がれている課題も噴出しています。

地域紛争はもとより、食糧問題、地球規模の環境問題、資源・エネルギー問題、貧困や感染症の拡大、国際犯罪や国際金融危機の頻発など、沖縄においては基地問題や若年層の雇用・就職問題、健康・長寿問題、過疎問題など、この地球上で人間ひとりひとりの生命と安全にとって脅威となる事象が生じており、社会全体としてこのような脅威への対処策が求められています。

人類社会が直面する課題群に対し、俯瞰的視点から物事の本質を捉え、危機や課題の克服、さらに新たな社会の創造・成長を牽引できるのは、諸君をおいてほかにごいません。琉球大学卒業生・修了生として自信をもって、自分が生活している地域社会はもとより、グローバル化した社会で活躍できるリーダーとして、さらに自己研鑽されることを期待いたします。

卒業・修了後も母校である琉球大学は、諸君に対してオープンです。琉球大学は、同窓生

や地域からの期待に応え、アジア・太平洋地域で光り輝く大学となるべく改革し脱皮していく所存ですので、これからは本学の同窓生として、琉球大学の発展や後輩の頑張りに力を貸してもらいたいと希望いたします。同時に、学び直しの間としてバッテリー・チャージが必要な諸君に対して常に門戸を開いておりますので、どうぞ活用ください。また、残念ながら、本日までに将来の進路を決定できなかった諸君については、これまで同様、気軽に大学を有効に活用してください。

ものみな栄えゆく春、諸君のますますのご活躍と限りないご発展を祈念して、饒の言葉といたします。美しい老後のために、どうぞ「今」を「おもしろおかしく」生きて下さい。

2014年3月20日

国立大学法人琉球大学長 大城 肇